



十二月の青空の下、庭に

ツバキの花が咲いています



順子さんの手紙

籠谷さんにこの手紙を
読んでいただける頃は私
は大阪から遠くの地で籠
谷さんの思い出にふけっ
ていることと思います。突
然姿を消してしまふ私を
どうぞお許しください。

ここ数ヶ月間私にとつ
て人生で一番幸せな日々
でした。籠谷さんとの出会
いがこんなに幸せで、こん
なに苦しいものになると
は想像もできませんでし
た。籠谷さんに「結婚しよ
う」と言っていたいた時
はもう想像も出来ない程
幸せでした。天にも登るよ
うでお店に出てもついニ
ヤニヤしてしまい、同僚か
らなにかいいことがあつ
たなあとからかわれ、それ
がまた心地よいのです。愛
する人が出来、そしてその

人から愛される、こんな素
晴らしいことがこの世に
あつたのだと何度も一人
でほっぺたをつまんでい
ました。夢ではありませ
んでした。

ありがとうございます
籠谷さん、私をこんなに幸
せにしてくださいさつてど
れだけお礼を言つても足
らないくらいです。

しかし、幸せな時は短
いのですね、この私にとつ
て幸せになつてはいけな
い自分なのです。

私は夫持ちです。結婚し
ています。実は夫はヤクザ
です。些細なことで喧嘩し
て相手を傷つけ今刑務所
に入っています。籠谷さん
が私のアパートのトイレ
のカレンダーに月一回印
がついていたのを聞かれ
たことがありますね、実
はその日が面会の日なの

です。私は彼とはもう愛情
もなく出てきたら分かれ
ることを考えて面会の時
は別れ話をしたのですが、
絶対別れないというので
す。籠谷さんにお会いして
からも何回か別れ話をし
に行きましたが、取り合っ
てくれません。絶対別れな
いというのです。このまま
だと来月出所してきます
ので、籠谷さんに迷惑をか
ける事になると思い私は
姿を消すことにしました。

離婚届は彼の同僚に渡し
て私は遠くに逃げようと
考えました。これが一番籠
谷さんに迷惑をおかけし
ない唯一の方法と思いま
した。

お許しください。今まで
黙っていて、しかしいつ言
おうか、いつ言おうかと思
っているうちに時間だけ
が過ぎてしまいました。でも私
の籠谷さんに対する愛情
だけは本物です。そこは信
じてください。籠谷さんは

リコーという立派な会社
にお勤めで将来のある身
でおられます。私などは早
く忘れて可愛い奥さんを
もらつて下さい。

最後にあなたと呼ばせ
て下さい。あなたにもらつ
たブローチを私の一生の
宝ものにします。私から何
もあげられず申し訳あり
ません。

私の行き先は探さない
で下さい。あなたとの思い
出を生きがいに遠くの地
で生きて参ります。さよう
なら わたしの愛するあ
なたへ……

私は呆然とその場に立
ち尽くしていました。同僚
の彼女もある程度のこと
は知っているのか私に声
をかけるのをためらつて
いました。クラブの音楽だ
けがやけにうるさく響い
ていました。やがて私の目
から涙がこぼれてきまし
た。どんどん流れてくるの
です。うそだ！うそだ！と

心で叫んで、探さなけれ
ば、どこを探せばいいの
か？「貴女は順子さんがど
こへ行ったのか知らない
の」「どこに行ったかおし
えて！」彼女は私の剣幕に
驚いて「私は何も知らない
の、一人で引越していつ
たから」「そんな馬鹿な、
誰か知っているだろう！」
私は自分を見失つてい
ました。支店長や、お客さ
んの事はすっかり忘れて、
どうする、籠谷 弘はどう
する！、どうすればいいの
か！、順子さんはどこにい
ったのか！、誰に聞け
ば！……次回まで

籠谷 弘



がん細胞はゼロになることは
ありません

4年前の9月、夫と私は主治
医に呼ばれ夫の検査結果と今後
の治療方針について説明をうけ
ました。「肺に癌が出来ている
事」「抗癌剤で治療をし、最後ま
で自分らしい生活をつづけるこ
とを目標とすること」「そして、
癌細胞はゼロになることはあり
ません」と・・・

わかったような、わからない
ような説明があり、自分らしく
生きられるのながらん細胞が少
しぐらい残ったって・・・そして
抗癌剤治療が始まりました。夫
はこれから自分の体に表れてく
る変化(副作用)に、どんなに怯
えていたことでしょうか。しかし
幸いに大きな副作用は無く1年
半が順調に過ぎていきました。
ところが1年半を過ぎた頃から
薬が効かなくなり、ガンが大き
くなっていきました。そこで2
つ目の抗癌剤へ、その薬は初め
の5日間がとても辛そうで、そ
れが過ぎると平常に戻りまし

た。でもその薬は8ヶ月しか効
きませんでした。

3つ目の抗癌剤は更に短く
4ヶ月程でした。この時夫の体
はもう抗癌剤を打つ体力はな
くなり、癌細胞が猛威をふるい
始め体のあちらこちらに転移
が始まっていました。

別室に私だけ呼ばれ主治医
に見せられた夫のCT画像。癌
細胞が体のあちこちに白々と
光っていました。この時癌細胞
はゼロにはならないとはじめ
に言われた事の残酷さに、初め
て気付きました。

それから1ヶ月程で夫は旅
立ちました。最後の2週間は緩
和ケア病棟に入れ、周りがコロ
ナで面会できない中、そこだけ
は毎日面会が出来ました。ある
日、もう声が出せない夫が突然
声を振り絞って言いました。
「さーよーうーなーらー」と、
余りに律儀な夫に啞然とする
やら涙が出て止まらないやら
「もうすぐ、お母さんにあえる
ね」と言ったら、コクリと頷い
てくれました。

夫と過ごした3年間の闘病

生活は、わたしにとってとても
濃い二人の時間になりました。
まだまだ立ち直れない私で
すが皆様よろしくお願いいた
します。

令和5年11月吉日

浅澤栄子



歌声喫茶 12月・1月の予定

「洛西」(第1、3木曜日)

12月 7日、21日

1月 4日、18日

楽々亭第37回 12月の予定

12月11日(月)

西京区役所洛西支所第三会議室

午前10時～12時



ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集して
おります。身の回りの出来事や体験談など、何
でも結構です。楽しかったこと、つらい想いを
したことなど、様々な胸の内を皆様と共有して
行きたいと考えております。